

支 部 通 信

公益社団法人日本山岳会山梨支部 第3期第5号
平成30年11月21日

第1回 田部祭

奥秩父をこよなく愛し、世に知らしめた登山家であり英文学者の田部重治の業績を偲び、「第1回田部祭」が、田部重治の玄孫（やしやご）、田部泰一さんや山梨市長ら地元関係者が参加して7月21日に盛大に開催された。

田部重治の業績に対しては、30年ほど前に西沢渓谷入り口の旧西沢山荘前に登山靴をイメージした大きな記念碑が設置されている。一方、田部と共に奥秩父の山々を登り、その魅力を世に紹介した木暮理太郎については、奥秩父の盟主金峰山が見える山梨県金山平（現北杜市須玉町）にこれも立派な記念碑が設置されて、毎年10月の第3日曜日に木暮祭が行われている。この碑前祭は今年で59回を数える。

田部と木暮理太郎が笛吹川上流、東沢渓谷を初めて遡行（1915年）して100年が経過した。この東沢遡行100周年や長年実施している木暮祭のことなどを勘案して、日本山岳会山梨支部は「田部祭」開催を数年前から地元の山梨市や山梨市観光協会三富支部に働きかけてきた。今回、地元が田部のレリーフを製作して記念碑にはめ込み、その除幕式と第1回田部祭を開催するはこびになった。

式典には約40人が参加。市観光協会三富支部長の雨宮巧さん（NPO法人山梨市観光振興会事務局長）が田部の業績や田部祭開催に至る経過を報告。玄孫の田部泰一さんのお礼の言葉や、高木晴雄山梨市長の祝辞などの後、田部さんらが除幕してレリーフを披露した。この後、参加者が献花・献酒して終了した。田部の盟友・木暮理太郎の生地、群馬県太田市からも「木暮理太郎の業績を語り継ぐ会」の服部佳郎会長らが駆け付けた。



日本山岳会山梨支部は、支部員17人と「やまなし登山基礎講座」の受講生数人が参加。碑前で記念撮影をし、その後、記念山行を実施した。これについては別に記す。（北原孝浩）

第4回 やまなし登山基礎講座を開催

安全登山の普及を目的とした山の日制定記念「第4回やまなし登山基礎講座」（全12講座）を、山梨学院生涯学習センターの協力を得て開催した。期間は平成30年9月末から10月末の火曜日夜（実践登山は終日）。毎回40人前後が受講し、特に公開講座「山梨の山岳遭難」は80名が参加した。

- 第1回（9月25日） オリエンテーション（古屋寿隆事務局長）
日本山岳会の紹介（深沢健三支部長）
安全登山と自然保護（古屋事務局長）
- 第2回（10月2日） 服装・装備・食料（北原孝浩副支部長）
山の歩き方、休み方（荻原賢司理事兼山行委員長）
- 第3回（10月9日） 地図の読み方（所一路理事）
山の気象と観天望気（小宮山千彰理事）
- 第4回（10月14日） 地図の読み方・セルフレスキュー実践登山（古屋事務局長、他）
- 第5回（10月16日） 公開講座・登山中の応急処置（恵秀彦日本山岳会医療委員会委員）

(2)

- 第6回(10月23日) 公開講座・山梨の山岳遭難(志村一県警山岳警備安全対策隊長)
- 第7回(10月28日) 実践登山・八人山(荻原理事兼山行委員長、他)
- 第8回(10月30日) 山梨の登山史(深沢支部長)
山梨の山と文学(矢崎茂男理事)

昨年度までは平日午後の開催だったが、受講者の年齢が高かったことから、少しでも若い人の受講を増やそうと、平日(火曜日)の夜間講座とした。また1講座の時間を90分から60分に圧縮。5時半頃から受付を設け、午後6時45分にスタートし、2つ目の講座終了を8時45分とした。その結果、定員30人に対して31人の申し込みがあり、山梨学院大の学生や仕事帰りのサラリーマン、OLなど、比較的若い世代を引き付けることができた。

夜間の開催にも拘わらず、手伝いいただいた会員に感謝したい。全国の支部でも半数以上が登山教室や講座を開催しているが、山梨は他を上回る内容となっている。会員の協力の賜である。(深沢健三)



支部山行報告

【日向山北東稜】 山行日：平成30年5月20日(日) 地図：2万5千図「長坂上条」

■行程：尾根取り付きー山頂ー矢立石ー竹宇駒ヶ岳神社 約7時間(休憩含む)

■参加者：長沢洋、荻原賢司、北原孝浩、古屋寿隆、大澤純二、大澤さな枝、荻野有基子、渡辺秀子、臼田昌美、深澤寿恵、清水芳房、清水富子、堀内佐紀子、伊藤智恵子

『風雪のビバーク』で有名な松濤明は昭和15年2月、戸台から甲斐駒に登り、日向八丁尾根を台ヶ原に下っている。弱冠18歳の単独行で、現代の感覚からするととんでもない若さでの、しかもその時代からするとかなりの冒険である。そのとき松濤が日向山から下ったのが、記述からするとどうやら北東稜と想像されるのである。この稜線には古い木曳道が残っていて、それをうまく発見できればさほどの苦労なく頂上へと導かれる。

すばらしい好天に恵まれた。登山口ではもう濃かった緑が登るにつれ淡くなっていく。矢立石からの一般道では想像もできないような深山の趣も途中にはある。



頂上近くで、わざと稜線ははずして小さな沢身をたどったのは、その源頭部の緑がひととき美しいのを知っていたからだ。クリンソウがいくつか咲き始めていた。

稜線に戻って背丈の低い笹原のかぼそい踏跡を急登し、バイケイソウが群生する平地で昼休みとした。そこからわずかにトラバースしていくと、徐々に地面が白くなり、雁ヶ原の白砂の斜面の下部に出る。一気に眺めが開け歓声があがった。ここまで来て昼にすればよかったと思った。

好天の日曜にもかかわらず頂上がさほどにぎわっていなかったのは、矢立石への林道が通行止だったせいだろ

う。頂上まで来て初めて姿を見せた残雪の甲斐駒をバックに記念写真を撮った。

駒ヶ岳神社へはただひたすら下るのみ。最後は登山の無事を感謝し神社に参拝した。(長沢洋)

【三ツ峠】 山行日：平成30年6月9日(土)・10日(日) 地図：2万5千図「河口湖東部」

■行程：御坂登山口ー三ツ峠山荘ー木無山ー御巢鷹山ー三ツ峠山荘(泊)ー周辺観察ー御坂登山口

■参加者：古屋寿隆、磯野澄也、遠山若枝、北原孝浩、荻野有基子、池田新二郎、山村正人、中村光吉、中川恵美子(以上、参加者のうち支部会員)

本山行は、山梨県山岳連盟70周年記念事業として、岳連・関東岳連・本支部始め一般登山者を対象に、高山植物及び希少高山植物の保護の重要性を学んでもらうことを目的に開催した。御坂登山口より日帰り組51名と宿泊組9名の計60名参加した。

御坂登山口に全員集合しセレモニー・体操後、3班に分かれ三ツ峠山荘へ登りながら班ごとに

高山植物の学習も行う。三ツ峠山荘ではご主人の中村光吉氏の説明を受け、木無山へ。防鹿柵内に特別入らせて頂き、絶滅危惧種の指定種：アツモリソウを観察する。初めて見る方も多く、ニホンジカからの防備、根の強い植物テンニンソウの除去、ラン菌の流れ、ほど良い樹木の管理など、ある程度保護するためには人的に手を加えることの重要性等の説明を受ける。また柵内のテンニンソウの除去作業を行い、保護意識を高めた。午後は三ツ峠・御巢鷹山で、指定種のカモメラン・キバナノアツモリソウその他の高山植物等を観察する。高山植物の盗掘はモラルの向上から全国的にはかなり減少したが、必ずしもゼロではない。その重要性を知り、絶えることなきよう後世へ伝承すべきである。三ツ峠は高山植物の宝庫であり、学習会には最適と考える。



日帰り組下山後、宿泊組は三ツ峠山荘にて机上講習を行う。中村光吉氏の実践している立場からの見た自然保護の一層の普及、吉野泰弘氏の指定種以外の貴重な絶滅危惧種の画像紹介に大変感心させられ、好評であった。

翌日の朝は土砂降りの中、2名が上がってきて三ツ峠・御巢鷹山を案内する。他は周辺の希少種をより深く観察する。結果的に一般参加者も含め、知らなかった高山植物への世界に大変満足の評を大多数からいただいた。多人数の学習会は大変な面もあったが、班別に岳連役員配置等に対応し、高山植物の重要性を肌で感じていただけたと思う。(磯野澄也)

【西沢渓谷】 山行日：平成30年7月21日(土) 地図：2万5千図「金峰山」

■行程：田部文学碑－西沢渓谷入口－七ツ釜五段の滝－トロッコ道－子西大橋

■参加者：深沢健三、北原孝浩、小宮山千彰、遠山若枝、萩野有基子、大澤純二、荻原賢司、渡辺峯雄、堀口丈夫、白田昌美、荏原由美子、大澤さな枝、澁澤和子、末木佐登子、山村正人

第1回田部祭終了後、記念山行として西沢渓谷を周遊した。碑前で記念撮影をして出発。当初、西沢渓谷と東沢渓谷に挟まれた急峻な鷹見岩(1646m)に登り、石塔尾根を下る予定だったが、式典後の不十分な時間や雷雨が予想されたため、西沢渓谷を一周する渓谷道コースに変更した。



西沢渓谷はいつ訪ねても太古から営々と続く渓谷美、特に数多くの滝と豊富な流れでできた巨大な滝壺とその瑠璃色の水…。渓谷道にはタマアジサイ(玉紫陽花)、ヤマアジサイ、山吹色のタマガワホトトギスが至る所に咲き競っていた。予想した通り、下山直前に猛烈な雷雨に見舞われ、肝を冷やした。(北原孝浩)

【木曾駒ヶ岳】 山行日：平成30年7月26日(木) 地図：2万5千図「木曾駒ヶ岳」

■行程：千畳敷－乗越浄土－木曾駒ヶ岳－頂上山荘－乗越浄土－宝剣岳－乗越浄土－千畳敷

■参加者：小宮山千彰、大澤純二、北原孝浩、遠山若枝、大澤さな枝、白田昌美、山村正人、高野正明

早朝5時に敷島総合文化会館に集合した。今朝も甲府盆地は蒸し暑い。中央道で伊那谷へ向かう。駒ヶ根菅野台バスセンターで先着3名と合流。総勢8名となってロープウェイに揺られ、木曾駒の山懐へ向かった。

千畳敷駅舎を出ると気温は19度と冷涼だった。宝剣岳が立派な山容で見下ろし、手前には千畳敷カールの緑が広がっている。駒ヶ岳神社に安全祈願をして登山開始。最初はなだらかだが次第に坂がきつくなって、足取りが重くなる。他のメンバーは花の写真を撮り和やかにおしゃべりしながら登っている。

50分の奮闘で乗越浄土に到着。青空の下に2軒の山小屋、そして2925mの中岳が目と鼻の先である。中岳山頂に登り着くと、目指す木曾駒ヶ岳が眼前に現れた。ここから一旦下って登り返すことになる。途中で地元の中学の学校登山グループに会う。ロープウェイを使わず1泊2日の登山とのこと。この地域の学校の伝統行事らしい。

木曾駒ヶ岳山頂からは、谷の向こうに木曾御嶽山が見えた。山頂は火山灰の堆積のためか一面白い。4年前の噴火の凄まじさを物語っている。駒ヶ岳神社に無事登頂の礼を述べて、往路とは別のルートを下る。途中、お花畑に花が咲き乱れていた。雪渓を残す窪地もあった。頂上山荘に

(4)

帰り着いて休憩。時間に余裕があるので宝剣岳に登ることになった。宝剣山荘脇にリュックを置いて急峻な岩場を慎重にたどる。梯子、ロープ、鎖が次々に現れる。一步間違えればと恐れおののきながらも、20分程で宝剣岳の尖塔に立つことができた。下りはさらに緊張を強いられた。

八丁坂は、体を地球の引力に任せて下る。登りより体力的には楽なので、周りの景色や草花に目をやる余裕があった。やはり千畳敷カールは見事だ。その壮大さに思わず見惚れた。

帰途、早太郎温泉で汗を流した。充実したアルプス山行だった。車の手配、登山計画書の提出、下見等山行委員会の方々に感謝するばかりである。(山村正人)



【硫黄岳・横岳・赤岳】 山行日：平成30年8月19日(日)・20日(月)

地図：2万5千図「八ヶ岳西部」「八ヶ岳東部」

■行程：美濃戸ー赤岳鉱泉ー硫黄岳ー硫黄岳山荘(泊)ー横岳ー赤岳ー行者小屋ー美濃戸

■参加者：小宮山千彰、大澤純二、山村正人、池田新二郎、高野正明、三輪田桂子、白田昌美、大澤さな枝

連日の猛暑が日本列島を襲う中、涼を求めて八ヶ岳をめざした。天候は晴れ、登山口的美濃戸赤岳山荘駐車場はすでに気温10度を切る別天地であった。一同期待に胸を膨らませ出発。快適なトレッキングの始まりだ。しばらく林道を歩いていると、トリカブトが随所に咲いている。リーダーが、トリカブトを食べるしぐさで、皆を笑わせた。

赤岳鉱泉に到着すると、横岳など八ヶ岳の峰々が大きく目に入る。そこから急な山道を登り、赤岩ノ頭を経て、硫黄岳山頂に至る。空には、薄雲がかかっていたが、八ヶ岳の峻峰群が間近に迫り、爆裂火口が大きく口を開け、硫黄岳山荘に至る稜線上には、等間隔に設置されたケルンの間に、ポツンポツンと、登山者の歩く姿が見える。実に爽快な場所だ。景色を楽しみながら昼食をとる。

ここから、宿泊地硫黄岳山荘までわずかな距離を、高山植物を探しながらゆっくり歩く。植物に詳しい女性陣達は、そこかしこで立ち止まり観察している。コマクサが花期の終わりを前に、ひときわ美しく咲いていた。

やや早い時間に山荘に到着し、暫しくつろぐと、支部山行恒例の飲めや歌えやの酒宴が始まった。明るい時間からの宴は大いに盛り上がり、話題は際限もなく広がり、瞬く間に時間が過ぎていく。ふらつく足で外へ出ると、夕日が雲海を赤く染めていくのが見える。この荘厳な景色を最後に、酔いが記憶を途切れさせた。

翌朝、天候が崩れそうな気配の中、横岳・赤岳を踏んで美濃戸に下山。下界に戻ると、温泉に浸かり、ゆったりとした気分で行きの山行を振り返る。誰もがいい笑顔をしている。このような山行をこれからもずっと続けたいと、思わずにはいられなかった。(池田新二郎)



【櫛形山】 山行日：平成30年9月9日(日)

地図：2万5千図「小笠原」「鰐沢」「夜叉神峠」「奈良田」

■行程：丸山登山道入り口ー丸山ー唐松岳ーアヤメ平ー櫛形山山頂ー櫛形林道出合

■参加者：荻原賢司、北原孝浩、大澤さな枝、遠山若枝、池田新二郎、白田昌美、高野正明、伊藤智恵子、渡辺秀子、渡辺峯雄

北岳山頂より富士を眺めると眼下南北にずっしりと構えている山体がある。南アルプスの盾、櫛形山である。今回の山行は、その北端に長く伸びている丸山尾根から頂上を目指す。参加者は会員8名、会員外2名の10名編成となった。心強いのは新たに会員になられた自称晴れ男の高野さん。今日も早朝までの雨模様が、登るに従い回復。秋の風が心地よい山行になった。晴れ男は自称でなく本当の様だ。

コースは、高尾、丸山から唐松岳、アヤメ平を経て山頂へのクラシックな登山道。登り始めて1本の休憩後、少し藪を登り丸山に到着した。頂上の小木には小さなブリキ板で丸山と薄く書かれている。唐松岳一帯は、悠久の歴史を感じる唐松の古木、ミズナラの森、幻想的な樹枝に下

がったサルオガセ。皆、「すごいね！」と感嘆する。

長い急登にも涼しい秋風を感じての山行である。アヤマ平近く獣除けのフェンス内の、今までと余りに違う景色に、一同啞然。フェンス内はトリカブト、アザミの青紫色に彩られ、夏の華やかさはないが、秋の颯爽とした草原に一変していた。皆ルンルン気分となって、珍しく人気のないアヤマ平の小屋前の長椅子に腰掛けゆっくりとした昼食になった。

午後のスタート。唐松、岳樺、コメツガの原生林の中、櫛形山山頂に向かう。足元のキノコ談議にジョークが混ざり一層賑やかな登山になった。山頂では雲間から一寸顔を見せてくれた富士山に感謝しつつ、記念写真に納まった。このところ一段と早くなった夕暮れを気にかけて祠小屋前で少しの休憩を取り一気に下山。その後、集合場所の伊奈が湖駐車場に戻り散会となった。(渡辺峯雄)



トピックス

★平成30年度 山岳レインジャー活動報告

今年度の山岳レインジャー活動は、メンバーを新たに4名登録し、11名で下表のとおり5山域に延べ25名のメンバーで実施した。

実施日	山域	ルート	メンバー (◎記録担当)
6月3日	奥秩父	定経路①	◎北原孝浩、池田新二郎、白田昌美、大澤純二、大澤さな枝、荻原賢司、澁澤和子、渡辺峯雄
6月17日	櫛形山	探索	◎磯野澄也、池田新二郎、白田昌美、大澤純二、大澤さな枝、北原孝浩、渡辺峯雄
7月1日～2日	甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳	探索	◎古屋寿隆、川手一正
7月12日～13日	白根三山	定経路①	◎大澤純二、池田新二郎、白田昌美、渡辺峯雄 大澤さな枝
7月30日～31日	鳳凰三山	探索	◎古屋寿隆、池田新二郎、荻原由美子

7月、白根三山定経路①を調査した際、トラバース道で「キタダケデンド」(山梨県が条例で絶滅危惧種と指定し、監視を要する特定種18種のうちのひとつ。平成20年度からスタートした現山岳レインジャー制度の下でこれまで未発見の種類)と思しきシダを発見したという報告が調査直後にあり、関係者は興奮した。はたして真正の「キタダケデンド」であるのかの判定が待たれたが、9月、環境省から「タカネシダ」(別称「クモマシダ」)との残念な連絡があった。しかし、この「タカネシダ」自体も「山梨県絶滅危惧種I B類」であり発見自体に意義のあることであった。(北原孝浩)

★59回目の木暮祭

北杜市須玉町の金山平で10月21日、59回目の木暮祭が開かれた。主催は木暮碑委員会を構成する増富ラジウム温泉郷観光協会と日本山岳会山梨支部、山梨県山岳連盟、北杜市。碑前で献酒、献花のセレモニーを行い、恒例の地元が用意してくれた「ほうとう」を楽しんだ。

金山平の高台にある碑前には約20人が集まった。古屋寿隆日本山岳会山梨支部事務局長の司会で献酒や献花の後、北杜市の坂本孝典須玉支所長、観光協会の津金胤仁会長、県山岳連盟の秋山教之会長、日本山岳会の深沢健三山梨支部長があいさつ。深沢支部長は「木暮とともに奥秩父に足しげく通った田部重治を顕彰する田部祭が、山梨市の西沢入り口にある田部重治文学碑前で初めて開かれた。奥秩父に関わる碑前祭が、ここ金山平、深田久弥の茅ヶ岳、そして田部の西沢とそろったことになる。今後も継承していきたい」と述べた。碑前で参加者全員の記念写真を撮った後、碑から下った広場で、増富観光協会が用意してくれた熱々の「ほうとう」



(6)

を楽しんだ。

木暮碑は周囲をシラカバ林に囲まれた高台にある。昨年、山梨県が碑の東側に幅10mほどの切り開きを作り、碑の正面に金峰山を望む事ができるようになった。今年の紅葉はややくすんでいたが、紅葉と金峰山を望むロケーションは、金山平の名所になりそうだ。(深沢健三)

★静岡にて「中部ブロック4支部交流会」開催

越後、信濃、山梨、静岡の4支部で構成される日本山岳会中部ブロック交流会が、平成30年11月3日・4日、静岡支部主催で静岡市清水区の世界遺産「三保松原」にある三保園ホテルで開催された。参加者は、山梨10名、越後5名、信濃11名、静岡21名の合計47名だった。羽衣伝説の三保松原散策、講演会、懇親会、交流ハイキングなど、盛りだくさんの企画を楽しんだ。

3日、三保の松原の羽衣の松から会場のホテルまで、雲の合間の富士山を眺めながら散策。講演会「松濤明氏について」では、山梨の山とも縁が深い松濤氏の大学山岳部後輩であり、かつ救助作業にも携わった静岡支部照内豊会員による、興味深い講演を聞かせていただいた。

翌日、JR用宗駅の裏山ともいえる満観峰470mは、駿河湾を見下す快適な里山歩きであり、海のない山梨県人からは、「海の見える山歩きもいいもんだなあ」との声も聞こえた。

山梨支部参加者：深沢健三、北原孝浩、清水日出勇、堀口丈夫、神山良雄、荻原賢司、遠山若枝、萩野有基子、大澤純二、末木佐登子 (大澤純二)



★70周年記念事業

支部創立70周年記念事業について、理事会で検討している。現時点での決定事項は次の通りである。

①式典は平成31年2月23日(土)、ぶどうの丘で開催。

②記念山行は24日(日)に実施予定。

③記念誌(『甲斐山岳・70周年記念号』)発行経費のための特別会費として5,000円、及び募金を集める。趣意書を会員に送付し協力を依頼する。

会員各位の協力と参加をお願いしたい。(古屋寿隆)

理事会報告

7月10日 第4回やまなし登山基礎講座開催案及び火曜日夜間開催のサポート体制について確認した。第1回田部祭及び記念山行について確認した。

8月9日 山梨支部の情報発信(JACホームページへの投稿など)の促進方法について議論した。

9月12日 第4回やまなし登山基礎講座の受講申込み状況の確認及び「地図読み・セルフレスキュー実践登山」「総合実践登山」の支援体制について確認した。

10月10日 山梨支部創立70周年記念事業について確認した。またホームページ活用の際、個人情報適切な扱いに一層配慮すべきことを確認した。(大澤純二)

日本山岳会山梨支部「支部通信」第3期第5号

発行者 深沢健三 公益社団法人 日本山岳会山梨支部 支部長

編集者 矢崎茂男 公益社団法人 日本山岳会山梨支部 理事(広報担当)

住所：408-0114 山梨県北杜市須玉町藤田502

TEL：090-7734-2788 Eメール：yazaki-s@taupe.plala.or.jp